

2011年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500hPa 高度は、北極域で負偏差となった。大西洋からユーラシア大陸では偏西風の南北蛇行が大きかったことに対応して、正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが見られ、ヨーロッパと日本付近は正偏差だった。また、太平洋中部から北米にかけて波列パターンとなった。太平洋の偏西風は、平年の位置と比べて北寄りだった。アイスランド低気圧は平年より強く、アリューシャン低気圧は平年より弱かった。

熱帯の対流活動は、アラビア海を含むインド洋西部や南シナ海付近では平年より活発、西部から中部太平洋赤道域で不活発だった。対流圏下層の赤道域では、インド洋東部から太平洋中部で東風偏差が明瞭だった。対流圏上層では、亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが明瞭で、日本付近は高気圧性循環偏差となった。振幅の大きい赤道季節内振動(MJO)は、大西洋から海洋大陸付近にかけて東進した。南方振動指数は+1.3だった。

世界の天候

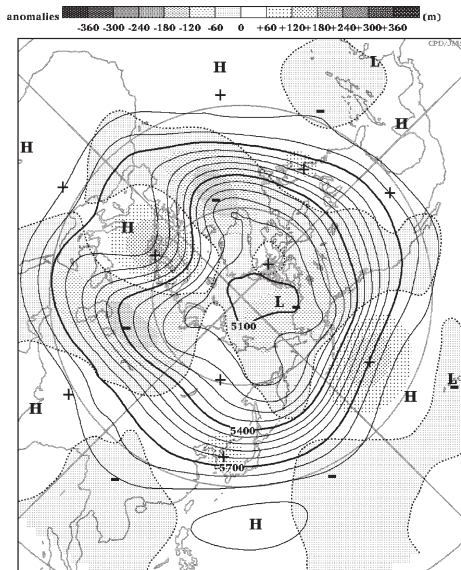
2011年11月の世界の月平均気温偏差は+0.07°Cであった。11月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.67°C/100年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 西日本から中国東部では、異常高温となった。
- 中央アジアから中東では、北から寒気が入り異常低温となった。
- ヨーロッパ東部及びその周辺では、背の高い高気圧に覆われることが多く、異常少雨となった。ドイツでは、1か月間の国内平均の降水量としては1881年以降で最も少なかったと伝えられた(ドイツ気象局)。

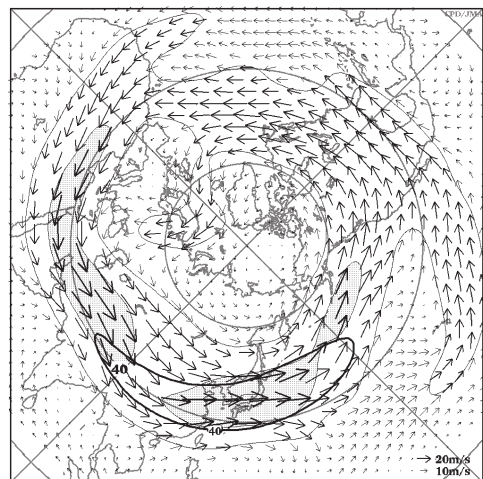
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

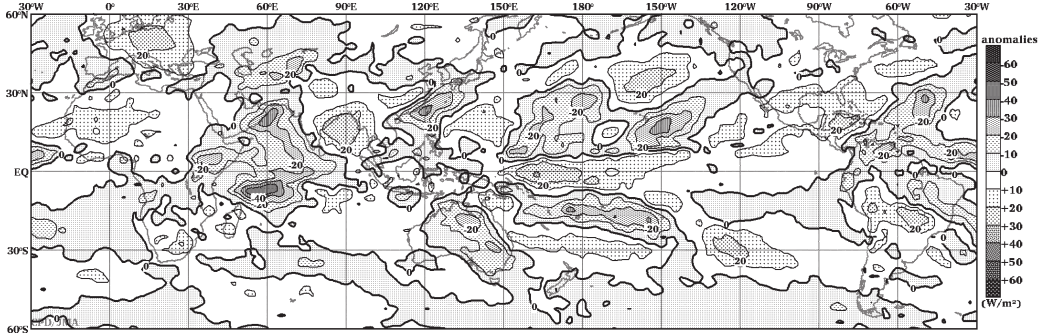
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



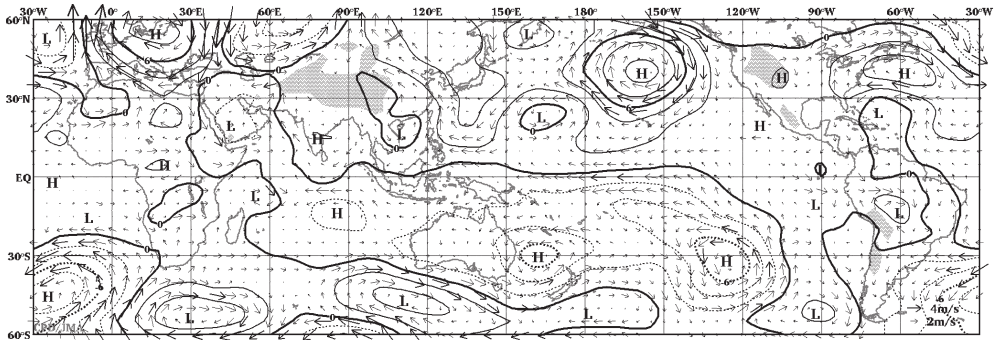
2011年11月の北半球月平均 500hPa 高度および年偏差
等値線間隔は60m. 陰影は年偏差. 年値は1981~2010年のデータから作成.



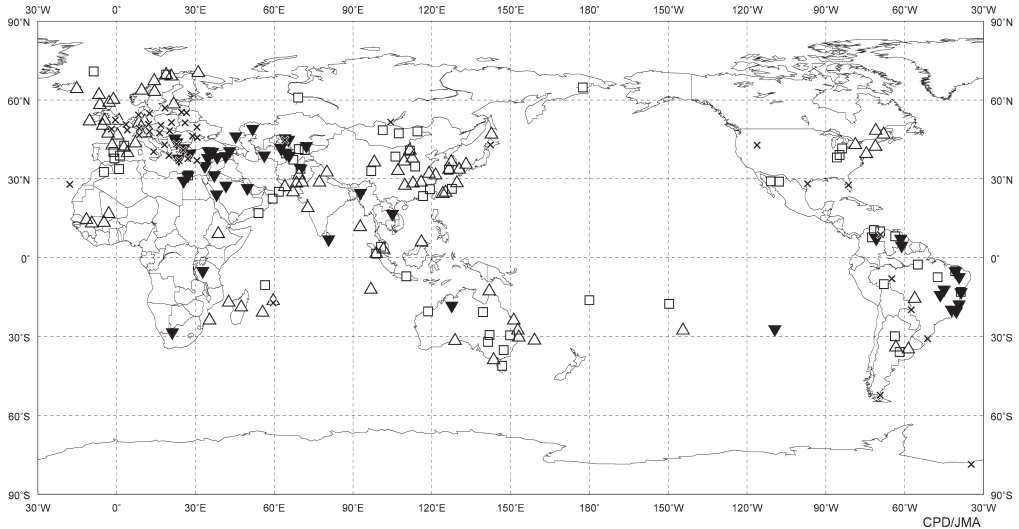
2011年11月の北半球月平均 200hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20m/s. 陰影部は40m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の40m/s以上の領域を示す. 年値は1981~2010年のデータから作成.



2011年11月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2011年11月の月平均850hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2011年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。